

筑紫野市立二日市東小学校校舎増築及び長寿命化改修工事
基本方針・基本計画

令和6年3月



筑紫野市教育委員会

目 次

1. はじめに

○基本方針

2. 背景と経緯	1
3. 学校の現状	2
(1) 学校の位置・校舎等の配置	2
(2) 主な校舎の状況	3
(3) 児童数・学級数の推移	3
(4) 地域防災計画における位置づけ	4
4. 学校の課題	4
(1) 教室数不足	4
(2) 管理教室棟及び教室棟1の老朽化	4
(3) 駐車場不足	4
(4) 管理諸室などの狭隘	4
5. 校舎等整備の基本方針	5

○基本計画

6. 増築校舎規模の検討	6
(1) 規模算定の条件	6
(2) 必要な教室数及び諸室数	7
7. 校舎配置の検討	8
8. 事業手法の検討	10
9. 事業費と財源の検討	10
(1) 概算事業費	10
(2) 財源の検討	10
(3) 事業費の低減	10
10. スケジュール	11

1. はじめに

二日市東小学校は、昭和31年に二日市小学校の分離校として開校し、令和3年で創立65周年を迎えた歴史ある学校です。開校当時は高度経済成長の初期にあたり、以後、人口急増期から今日まで数多くの児童を受け容れ、子どもたちの学び舎・教育の拠点として本市の発展に大きく貢献してきました。近年は、在籍児童数が1,000人を超え、市内最大の児童数を有する小学校となっています。

また、この地域においては、筑紫野市役所をはじめとして公共施設や商業施設など都市施設が集積された利便性が非常に高いまちが形成されており、その魅力や福岡市に近接している地理的特性などから、若い世代の転入も多くあり、多世代が混在する住民の調和がとれたまちづくりが進められています。

本校は長い歴史の中で、住民と共に様々な行事や出来事を経験しながら教育・活動の拠点として地域に愛され育まれてきました。

また、「子どもたちの大切な学びの場」であり「地域や社会体育における貴重な活動の場」としても活用されており、災害時における二次避難所としての機能も有しています。

このたび、校区内におけるマンション開発等に伴う児童数全体の増加及び特別支援学級に在籍する児童数の増加により、教室数が不足することが見込まれるため、校舎の増築を進めることといたしました。同時に、昭和57年に建築された校舎（教室棟1）及び昭和58年に建築された校舎（管理教室棟）の長寿命化改修工事が必要な時期を迎えているため、前述の増築工事と併せて整備を行うこととしました。

そこで、増築する校舎の整備方針や配置案及び長寿命化改修工事などを進めるに当たっての基本的な考え方を取りまとめた「筑紫野市立二日市東小学校校舎増築及び長寿命化改修工事基本方針・基本計画」を策定いたしました。

策定にあたっては、学校関係者や教育委員の方々などから様々な意見をいただきながら校舎増築及び長寿命化改修に向けた検討を行い、教育委員会会議及び総合教育会議において協議を進めてまいりました。

今後は、この「基本方針・基本計画」を基に、設計の段階となりますが、保護者や地域住民の皆さまへの丁寧な説明に努めながら、二日市東小学校の児童のみなさんが喜んで毎日行きたくなるような魅力のある学校、また、地域の方々が誇りに思えるような学校を目指して、校舎の増築及び長寿命化改良事業に取り組んでまいります。

2. 背景と経緯

二日市東小学校はJR二日市駅・天拝山駅及び西鉄紫駅・朝倉街道駅に近く、大規模商業施設も立地し、まちの利便性が高いため、駅周辺におけるマンション等の建設が加速しています。二日市東小学校区にあっては、他地域とは異なり子育て世代の流入も続き依然として児童数が増加しており、今後もこの傾向が続く見込みとなっています。同時に、特別支援学級に在籍する児童数の増加や35人学級への移行もあり教室数の不足が懸念されています。

そこで、これまでの児童数及び特別支援学級に在籍する児童数の増加の経過を辿り、マンション開発等に伴う転入者数の見込みなどを基にした、児童数・学級数推計を行ったところ、令和14年度に児童数が1,200人を超え、学級数も52学級となりピークを迎えることが推測され、今後教室数が不足する恐れがあることから、教室確保等に係る対応策の検討を行うこととしました。

また、児童数、学級数及び教職員数の増加に伴い、職員室や保健室、配膳室などが手狭になっており、駐車場の不足なども課題となっています。

さらに、子どもたちが学習活動を行う校舎の内、昭和57年建ての教室棟1及び昭和58年建ての管理教室棟については、建40年以上が経過して老朽化が進んでおり、本市の公共建築物長寿命化計画において、令和7・8年度に長寿命化改修工事を実施する予定となっています。

そこで、普通学級及び特別支援学級の増加に伴う教室不足及び校舎の老朽化などに対応するため、大規模な改修工事をして長寿命化を図るか、取り壊して建て替え（増改築）工事を行うか等について検討を行いました。

3. 学校の現状

二日市東小学校の近辺ではマンションなどの住居系建物の建設が多く見られ、年々、児童数は増加傾向で推移しており、特別支援学級に在籍する児童数も増加しています。現在、教室数は辛うじて確保できているものの、教室に間仕切り壁を設置するなどして、学校における創意工夫により教育活動が継続されています。運動場は、1,000人を超える児童を同時に受け容れられるほど広くないため、休み時間や運動会などのイベント時にあっては学年ごとに分かれて利用する状況にあります。

また、学校教育法の改正により義務教育における初等教育課程においては、35人学級制が順次実施されており、児童受け入れのための教室数確保及びICT活用に伴うタブレット等の保管庫確保等が必要となっています。

教職員にあっては、児童数全体の増加及び特別支援学級に在籍する児童数の増加に伴う学級数増により教員・事務職員・支援員等を合わせた人数は80を超え、今後も増加するものと見込まれます。本校は、郊外に立地する学校と比較して、敷地が非常に狭いため職員駐車場及び来校者等駐車場も十分に確保できていない状況です。

(1) 学校の位置・校舎等の配置

◎位置図

所在地：福岡県筑紫野市紫七丁目4番1号



◎校舎配置図



(2) 主な校舎の状況

棟名	構造	階数	延床面積	建築年度	築年数
管理教室棟	RC	地上3階	2,071 m ²	昭和58年	40年
教室棟1	RC	地上3階	2,746 m ²	昭和57年	41年
教室棟2	RC	地上3階	2,888 m ²	平成24年	11年
屋内運動場棟	RC	地上2階	2,095 m ²	平成21年	14年

(3) 児童数・学級数の推移

項目		H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5
児童数	普通学級	952	941	977	1,029	1,046	1,029	1,053	1,039	1,022	1,036	1,048
	特別支援学級	17	23	23	26	27	38	44	47	60	61	75
	合計	969	964	1,000	1,055	1,073	1,067	1,097	1,086	1,082	1,097	1,123
学級数	普通学級	29	28	31	32	31	30	30	32	30	30	31
	特別支援学級	4	5	5	5	5	7	7	8	11	11	14
	合計	33	33	36	37	36	37	37	40	41	41	45
	H25年度比増減数	—	0	3	4	3	4	4	7	8	8	12

(4) 地域防災計画における位置づけ

市域内において、災害対策基本法第2条第1項に定める災害が発生し、または発生するおそれがある場合で、必要がある場合には、筑紫野市役所に「災害対策本部」が設置され、被害の状況等に応じ段階的に避難所が開設されることとなっています。

本校は、一次避難所が使用できなくなった場合や大規模な災害が発生した場合などに利用できる「二次避難所」として指定されており、まずは屋内運動場棟が二次避難所として開設されますが、これが利用できなくなった場合は教室棟を使用することとなっています。

4. 学校の課題

(1) 教室数不足

今後もマンション開発等に伴う児童数全体の増加及び特別支援学級に在籍する児童数が増加することが見込まれており、児童数・学級数推計の結果、令和14年度に児童数が1,200人を超え、学級数も52学級となりピークを迎えることが予測されています。

そのため、現在、二日市東小学校の普通教室の数は45教室であることから、今後7学級分の教室が不足する見込みとなっています。

(2) 管理教室棟及び教室棟1の老朽化

管理教室棟及び教室棟1は、築40年以上が経過して老朽化が進んでいるため、大規模な改修工事を含む長寿命化改修工事が必要な状況になっています。

(3) 駐車場不足

次の事由により、教職員駐車場及び来校者駐車場が不足しています。

- ・学級数の増加に伴い、教職員数が増加したこと
- ・コミュニティスクールの導入により地域関係者等の来校が増えたこと
- ・放課後児童クラブ・放課後デイサービスの利用者が多くなり、送迎車用の待機スペースを確保する必要性が生じたこと

(4) 管理諸室などの狭隘

児童数、学級数及び教職員数の増加に伴い、職員室や保健室、配膳室などの管理諸室が手狭になっています。

○以上のことから、今後の学校運営に支障をきたすことのないようにするためにも、早急な対応が求められています。

5. 校舎等整備の基本方針

本市の将来都市像として掲げられた「ひとが輝き 自然が息づく 住みたい幸福実感都市」を実現するための政策である「人が生まれ、活躍できる子育て・教育のまちづくり」により「学校教育の充実」等を確実なものにすることで、子どもたちが確かな学力を身につけ健やかに育ち安心して学校生活を送ることが出来るよう、教育環境の整備を計画的に進める必要があります。

また、教育現場を担う教職員目線での働きやすい職場環境の整備についても、充実が求められています。

以上のことから、基本方針を次のように定めます。

基本方針

- 学級数の増加や管理教室棟及び教室棟1の老朽化に対応するため、校舎の増築及び建替え（増改築）を含め検討します
- 建替えを行わない場合は、長寿命化改修工事を行います
- 駐車場については、新たに40台（全体で100台）程度を確保します
- 手狭になっている管理諸室については、拡幅工事を行います

（方針内容）

- ① 児童が安心して安全に快適な生活を送ることができる校舎
 - (ア) 耐震性の向上や防犯対策、感染症対策等に努め、児童、教職員が安心して安全に利用できる校舎とします
 - (イ) 学習の場であるのみならず、児童の生活の場であることに留意し、日照、採光、通風、換気、気温、湿度などの快適性や、心と体の健康を支える保健衛生に配慮した校舎とします
 - (ウ) 地震や浸水等に対する防災機能の強化、ユニバーサルデザインの採用などに配慮した校舎とします
 - (エ) 災害発生時に活用できる2次避難所としての機能を備えた校舎とします
- ② 今日的な教育ニーズに対応した校舎
 - (ア) 新学習指導要領で示されている「主体的・対話的で深い学び」を実現するため、多様な学習形態や集団による活動が可能となる校舎とします
 - (イ) 共生社会の形成に向けたインクルーシブ教育、外国人児童の受け入れや国際化の進展を踏まえた国際理解教育、情報活用能力の育成や校務情報化に向けたICT化の推進など、今日的な教育ニーズに対応した校舎とします
- ③ 児童数・学級数の動向を見据えた校舎の整備
 - (ア) 児童数の推移や将来の推計を踏まえ、現状だけでなく、将来を見据え、適正な規模での整備を行います
 - (イ) 普通学級、特別支援学級など、児童数に加え学級の種類や数などに留意して整備を行います
- ④ 環境に配慮した校舎

再生可能エネルギー導入、高断熱性の確保や高効率機器の導入や工事における再生可能な材料の使用、仮設物や施工方法の簡略化など、環境に配慮したエネルギー消費の効率化と経済性を兼ね備えた校舎とします
- ⑤ 教職員・保護者・来校者が安全に駐車できるスペースを確保

学校敷地内に駐車場を新たに10台程度（現状62台）確保し、学校敷地内に保護者、来校者等が駐車できるスペースを確保します。また、近隣市有地に職員用駐車場として新たに25台程度確保します。

6. 増築校舎規模の検討

校舎の増改築を検討する上で過少にも過大にもならないようにするため、児童数・教職員数、放課後児童クラブの利用状況について、可能な限り将来を見越した適正な規模の想定を行うと同時に、周辺地域におけるマンション等の開発状況など外的要因を想定・勘案して、必要な教室数及び延床面積等の算定を行うこととしました。

(1) 規模算定の条件

・人口の推移

本市の人口は、令和5年12月の時点で106,000人と現在も増加傾向にあり、第7次総合計画の策定に係る市独自の将来推計人口では、令和12年にピークを迎え108,000人程になることが見込まれています。

今後、人口の対前年比増加率は鈍化する見込みとなっていますが、これは市域全域を対象としたものであり、利便性の高い二日市地域にあっては暫時人口流入が続くものと推測されます。

・児童数の推移

前述の人口推移に加え、現時点での在籍者数や就学前の住民基本台帳登録者数、近隣の開発状況など、これらを加味した上で下表のとおり推計しました。

・学級数の推移

前述の児童数推移に加え、学級数の推計にあたっては、学年ごとの普通学級児童数、障がいごとの特別支援学級児童数、35人学級移行の進捗状況を考慮する必要があり、これらを加味した上で下表のとおり推計しました。

児童数学級数推計（令和5年5月1日基準）

◎二日市東小学校

		推計→										
項目		R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12	R13	R14	R15
児童数	普通学級	1,048	1,070	1,090	1,079	1,107	1,113	1,114	1,116	1,107	1,132	1,125
	特別支援学級	75	73	76	76	79	79	82	82	81	83	81
	合計	1,123	1,143	1,166	1,155	1,186	1,192	1,196	1,198	1,188	1,215	1,206
学級数	普通学級	31	33	34	34	34	35	35	35	35	36	36
	特別支援学級	14	14	14	14	15	15	16	16	16	16	16
	合計	45	47	48	48	49	50	51	51	51	52	52
	R5比増減数	0	2	3	3	4	5	6	6	6	7	7

《学級数のピーク》

令和14年度 普通学級36、特別支援学級16 計52学級（R5比：7学級増）

（内訳）普通学級5増、特別支援学級2増

(2) 必要な教室数及び諸室数

児童数学級数推計に基づき、確保すべき必要な教室数を次のとおり設定します。

- ・普通教室：8
- ・特別支援教室：8
- ・通級指導教室：3
- ・適応指導教室：1
- ・多目的室：1
- ・相談室：2
- ・共用諸室：トイレ、倉庫、教材室など

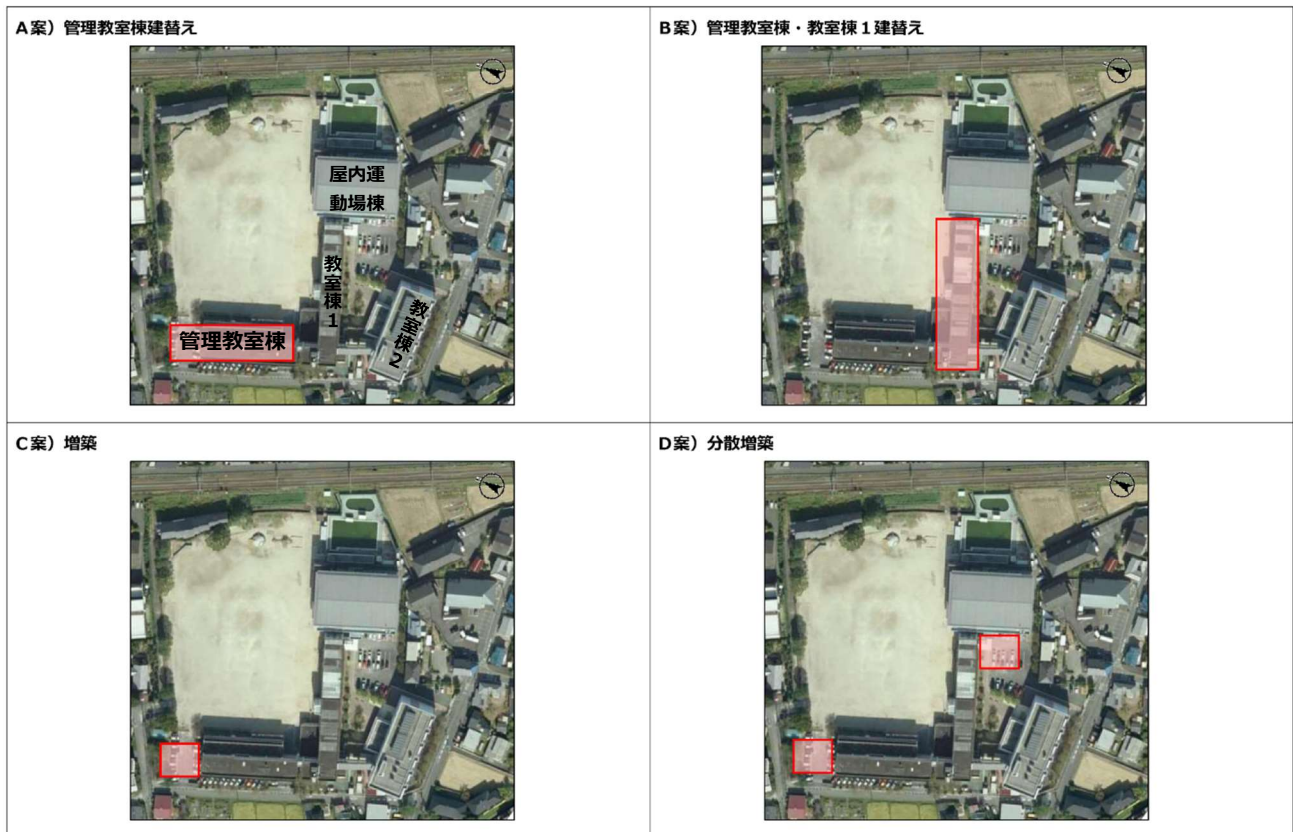
7. 校舎配置の検討

先述のように、管理教室棟、教室棟1が築40年以上経過しているため、当該校舎を取り壊して建替え工事を行うのか、大規模な改修工事等を実施して建築物の長寿命化を図りつつ、不足する教室数は増築工事を行って確保するののかについて、検討を行いました。





建替えの場合、学校全体の校舎バランスを考慮しながら校舎を配置することが可能で、運動場や職員駐車場等のスペースを確保できるといったメリットが多くあるものの、工事費が50億円近く必要になります。

一方、長寿命化を図って増築工事と長寿命化改修工事を併せて行う場合、約34億円の事業費が必要で前者と比較して安価に抑えられるメリットがあります。しかし、増築工事と長寿命化改修工事と並行して行うことは、工事の進捗管理が複雑になり施工者側の高いスキルが求められることと、学期ごとに児童が校舎間引越しを行う必要があるため、懸念材料は小さくないものと考えられます。

これらのことを念頭に置いて、次のように校舎配置の検討を行いました。



- A案は、管理教室棟を増改築し、教室棟1の長寿命化改修工事を行うもの
- B案は、管理教室棟・教室棟1を解体し、教室棟1の箇所に増改築するもの
- C案は、管理教室棟横に校舎を増築し、管理教室棟・教室棟1の長寿命化改修工事を行うもの
- D案は、管理教室棟横及び屋内運動場棟横に校舎を増築し、管理教室棟・教室棟1の長寿命化改修工事を行うもの

基本計画案		A	B	C	D
		管理教室棟建替え	管理教室棟・教室棟1建替え	増築	分散増築
					
付帯工事		管理棟解体工事、外構工事（駐車場舗装他）、仮設校舎建設	管理棟・教室棟解体工事、外構工事（駐車場舗装他）、仮設校舎建設	外構工事（駐車場舗装他）、管理棟増築工事（職員室など）、仮設校舎建設	外構工事（駐車場舗装他）、管理棟増築工事（職員室など）、仮設校舎建設
事業費		X 事業費：3,966,603千円 【市単費：3,547,433千円】 【補助金：419,710千円】	X 事業費：4,804,907千円 【市単費：4,552,602千円】 【補助金：252,305千円】	O 事業費：3,340,699千円 【市単費：2,806,619千円】 【補助金：534,080千円】	X 事業費：4,021,474千円 【市単費：3,487,394千円】 【補助金：534,080千円】
補助金		X 管理教室棟の建替えが補助要件に該当せず	X 管理教室棟・教室棟1の建替えが補助要件に該当せず	O 校舎増築は補助要件に該当	O 校舎増築は補助要件に該当
校舎全体の配置バランス		O 現状は大きく変わらない	O 棟数が減り、校舎全体の配置がコンパクトになる	O 現状は大きく変わらず	△ 中庭などのスペースが狭くなる
駐車可能台数【現在：62台】		O 116台	O 111台	O 94台	△ 78台
総合順位		③	④	①	②
長寿命化改良含む	増改築+工事内容	新管理教室棟（建替え） 既設教室棟1（長寿命化1）	新管理教室棟（建替え）	増築教室棟（増築） 既設管理教室棟（長寿命化1） 既設教室棟1（長寿命化2）	分散増築教室棟（増築） 既設管理教室棟（長寿命化1） 既設教室棟1（長寿命化2）
事業費財源内訳	総額	3,966,603千円	4,804,907千円	3,340,699千円	4,021,474千円
	補助金	419,710千円	252,305千円	534,080千円	534,080千円
	市単費	3,547,433千円	4,552,602千円	2,806,619千円	3,487,394千円
市単費比較（C案基準）		740,814千円	1,745,983千円	—	680,775千円

A案・B案については、校舎の配置バランスが良く、効率のよい校舎配置が可能であり、運動場や駐車スペースの確保に繋がりますが、事業費が莫大に膨らむこと、既存校舎の改築費用が文部科学省の補助金対象外となること、大きな仮設校舎の建設が必要になることなどの理由により評価は低位とし、C案・D案にて慎重に検討を行いました。

C案は、5階建てとなるため校舎としての利便性は低いものの、D案よりも駐車場台数の確保が可能で現校舎の使い勝手も大きな変化がなく、かつ、安価に建築できるため大きなメリットがあります。
従って、**管理教室棟に並列して増築するC案のとおり配置するもの**としました。

8. 事業手法の検討

本事業は、校舎の増築工事及び管理教室棟・教室棟1の長寿命化改修工事を行う事業です。そのため、工事内容が複雑かつ多岐に渡ることから、高度な工程管理力と技術力を有する事業者の選定が必要となります。また、学級数増に伴う仮設校舎の建設は見込んでいないことから、教室が不足する事態に陥らないためにも事業期間の短縮（特に校舎増築工事）の必要性は高いと考えられます。

従って、施設整備手法については、窓口を一本にして事業を進めることができ、資器材の先行発注など効率的な業務遂行が可能となり事業期間の短縮が見込まれる『デザインビルド方式（設計施工一括発注）』を採用し、事業者の選定方法としては、技術提案を評価して、優良な事業者を選定することが可能な『プロポーザル方式』により、事業を進めます。

9. 事業費と財源の検討

(1) 概算事業費

項目	金額（千円）
設計業務委託料	277,202
校舎増築工事費（付帯工事等含む）	1,572,997
管理教室棟 長寿命化改修工事	630,293
教室棟1 長寿命化改修工事	860,207
事業費計	3,340,699

(2) 財源の検討

当該事業費の財源については、文部科学省の「学校施設環境改善交付金（1／3）」「公立学校施設整備負担金（1／2）」、公共施設の脱炭素化に係る補助金等を最大限に活用することで、市支出を節減しつつ実施するものとします。

(3) 事業費の低減

①建設段階のコスト縮減

施設整備手法として採用するデザインビルド方式のメリットを活かし、技術力を重視した事業者選定を実施し、独自技術やノウハウを活用した設計を行い、品質を確保した上で可能な限りコストの縮減を図ります。

また、学校に必要な機能を維持した上で、過度な仕様とならないよう留意し、さらにコスト縮減に向けた取り組みを検討します。

②維持管理費の抑制

長期にわたる維持管理経費は、大きな課題であることから、今後の設計段階において、維持管理しやすい建築材料や設備などの採用を検討することに加え、省エネルギー対策やコスト縮減についてさらに検討し、維持管理経費の抑制に努めます。

10. スケジュール

以下のスケジュールを予定しています。

	令和6年度			令和7年度			令和8年度			令和9年度			令和10年度			令和11年											
	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
設計業務				基本設計 実施設計																							
増築校舎建設							工事						★供用開始						教室棟1の仮校舎 としても利用								
管理教室棟 仮設棟建築							工事			供用期間			解体														
管理教室棟 職員室等増築													工事														
管理教室棟 長寿命化改良工事																						工事					
教室棟1 長寿命化改良工事																									工事		

筑紫野市立二日市東小学校校舎増築及び長寿命化改修工事
基本方針・基本計画
令和6年3月

筑紫野市教育委員会教育政策課
〒818-8686 福岡県筑紫野市石崎1丁目1番1号
TEL : 092-923-1111 FAX : 092-923-9644